

PRJ:プロジェクト管理システム

- プロジェクト別、リソース別の購買、時間報告、経費報告により、プロジェクト別原価計算を行うモジュールです。
- プロジェクトにコストを集計し、完成基準もしくは工事進行基準で売上を計上する業態に最適のシステムです。
- 外貨・バイリンガル対応していますので、海外でプロジェクトを行っている会社は必見のソフトです。
- 年別にプロジェクトコードを分けなくても年別(または半期別等)に別プロジェクトとして管理できるサイクル・プロジェクトも管理可能ですので、システムサポート会社、会計事務所など継続プロジェクトを管理する業態にも最適です。

主なメニュー

- プロジェクト登録、承認
- 実行予算登録、承認
- プロジェクト受注入力、承認
- 計上支払予定登録
- 支出見込み登録
- プロジェクトタスク進捗状況
- 月次原価発生状況
- プロジェクト取引照会
- プロジェクト取引入力
- 見越しコスト計上
- 完成プロジェクト指定
- 見越しコスト精算
- 完成計上承認
- プロジェクト売上一覧
- 業務日報入力、承認、確認、照会
- タイムレポート入力
- 仮払申請、承認、実行
- 経費報告書入力、印刷
- 経費報告書経理承認
- 作業報告締め
- アサイメント状況照会
- プロジェクト購買発注承認
- プロジェクト購買支払依頼、支払依頼書印刷
- 共通プロジェクト配賦
- 期間経費分割
- 原価管理月報
- プロジェクト元帳

目的別、状況区分別管理

- 各種のプロジェクトを目的別に分類し、各目的毎に、状況区分の設定が可能です。
- 状況区分は、例えば、受注前の状況を管理するか、完成時点で見越し計上を行うかどうか、見越し精算後に保証期間を設けるかなどの選択が可能です。
- 目的区分については、まず収益プロジェクトと管理プロジェクトを最低限分離します、さらに、建設業などでは、収益プロジェクトを建設事業と不動産事業、土木事業などの事業目的に分類します。
- Plaza-i では、プロジェクトの事業目的や状況区分によって、計上すべき勘定科目を変更することが出来ます。

タスク別実行予算管理

- プロジェクトを適切なタスクに分解し、それぞれに実行予算数値(時間もしくは金額等)を設定できます。タスクはいわゆる WBS を反映した階層定義が可能です。
- 実行予算設定にあたっては、提案時見積コストとの比較、共通タスクの設定、タスクパターンからの自動複写などの機能を利用できます。

2種類の時間報告とアサイメント

プロジェクトコード	タスク名	タスクコード	タスク集計	04/01	04/02	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	04/08	04/09
1100050	営業支援	380	300SMA	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11000139	現状分析	300-1	FDCEMP	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11000139	基本設計	300-2	FDCEMP	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11000139	詳細設計	300-3	FDCEMP	0	5	0	0	0	0	0	0	3
11000139	現地支援	300-4	FDCEMP	0	3	0	4	0	0	0	0	2
11000139	現地支援-追加	300-5	FDCEMP	3	0	2	0	0	0	2	3	1
13001141	営業フォロー作業	31	300SMA	2	0	0	0	0	0	2	2	0
13001141	仕様書作成作業	45	400CNS	0	0	0	0	0	0	3	1	0
13001141	固定保守確認	71	700SRV	0	0	3	0	0	0	0	0	0
13001141	固定保守SE作業	72	700SRV	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13001141	インシデント保守	73	700SRV	0	0	2	0	0	0	0	0	0
13001141	突動保守有償	74	700SRV	0	0	3	0	0	0	0	0	3
13001241	営業フォロー作業	31	300SMA	2	0	0	0	0	0	0	0	0
13001241	仕様書作成作業	45	400CNS	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13001241	リーダーPGL作業	55	500DEV	0	0	0	3	0	0	0	0	0
計				7	8	10	7	0	0	7	10	9

- スタッフ(リソース)による時間報告は、プロジェクト、タスク、かつ日別に行います。
- 1日を時間帯に分割し、かつ、コメントなども記載可能な業務日報による報告形式と、1週間もしくは月2回など適切に区切った報告期間に1度報告を行えばよいタイムレポートによる報告形式のいずれかを、リソース毎に選択可能です。
- いずれも、実行予算から期間別にアサイメントされたタスクが自動的に入力画面に表示されますので、間違ったプロジェクトに時間をチャージしてしまったという事故は起こりえません。

仮払対応経費報告

- リソース(社員と現場)別に、経費報告最高額、補充金額、仮払残最高金額などを設定できます。
- プロジェクト管理システムを通じて依頼し、債務管理システムで支払いした仮払は、リソースに自動的に計上され、全額精算するまで、確実に残高管理されます。
- 時間報告同様、各リソースはアサインメントされたプロジェクト、タスクしか経費精算報告することは出来ません。
- 各社員が経費報告書を入力(経費は業務日報と連動して日々入力することもできます)、プリントアウトし、証憑を貼付して、経理部に提出します。
- 経理は誰が経費報告書を提出しているのか、一覧画面から確認し、証憑を確認しながら承認します。
- 経費を現金で支給する時に便利な、小口現金金種表が出力出来ます。小口現金受領書で確実な受取管理が可能です。
- 仮払金を超えて、補充、不足等支払金額が発生する場合には、経理部の承認により、債務管理システムに自動的に債務計上データが転送されます。
- 経費報告金額が、仮払金額に等しいかもしくは不足し、支払金額が発生しない場合は、仮払金を精算する仕訳が一般会計システムに自動仕訳として転送されます。
- つまり、業務日報との連動入力や仮払金支払・精算というシステムを複雑にしがちなる要素を認めながら、各自がメニューに従って処理を行うと、一般的には非常に手間が掛かりがちなる経費精算という会計処理を、低コスト・短時間で完了させてしまうと言う、非常に良くできたシステムとなっています。

リソース業務管理

- タイムレポートは提出必須なのか、業務日報で提出するのか、経費報告は提出必須かなどをリソース別に指定可能です。
- 各作業報告期間、経費報告期間において各リソースの時間ならびに経費報告報告状況を管理できます。
- 全員が提出しないと各期間の締めが終了しませんので、タイムリーな時間・経費報告を強制できます。
- 一方、代理ログオンという機能を用意していますので、社員が出張中の場合などには、代理者がログオンして処理を継続することが出来ます。

プロジェクト購買

- 特定のタスクを外注先に担当させ、コストを計上することも出来ます。
- Plaza-i では、計上支払予定として、発注前、もしくは請求書を受け取る前に、支払予定を登録することが出来ますので、精度の高い資金繰り管理

を実現できます。

- 実際に支払依頼を行うと、債務管理システムに債務計上データが転送されると同時にプロジェクト取引が自動生成されます。
- また見積依頼のプロセスからスタートすることも出来ます。
- この場合は、見積依頼業者登録、見積依頼書の印刷、見積確定のプロセスを経て発注伝票を生成、出力します。
- 発注伝票に対し、出来高を登録し、承認により債務管理システムに支払依頼データを転送します。
- 同時に、支払依頼書を印刷し、仕入先・外注先からの請求書を添付して経理部に提出します。
- 建設業特有の引去にも対応しています。

見越しコスト計上精算

- Plaza-i システムでは、プロジェクト完成時点で、まだ請求書ももらっていないが、発生が確実な経費を未払費用として見越し計上することが出来ます。
- 見越し計上後の検収期間に発生したコストは、通常のプロジェクト購買支払依頼や経費報告等の処理により実績額が計上されますが、意識しなくても会計上、借方未払費用の仕訳が自動仕訳されます。ここもまた、会計処理まできちんと連動する Plaza-i の魅力といえましょう。
- 見越しコストは 3 か月等、適切な期間で精算し、実際発生コストとの差額を精算処理します。Plaza-i では、差額の理由等を入力し、見越しコスト計上精算明細表として出力後、見越しコスト精算処理によって、プロジェクトを次の状況区分(保証期間もしくはクローズ)に自動的に移行させながら、正しい仕訳を自動生成することが出来ます。

支出見込登録により赤字プロジェクトを早期発見

- Plaza-i では、プロジェクトの初期段階から、各タスクに対し原価発生予定金額を登録することが出来ます。
- これは当初は実行予算金額であったり、発注先が決まると発注金額であったり、またプロジェクトの進行に従って精度の高い見込み金額であったりするわけですが、月次ベースでこうした金額を調整入力することにより、プロジェクトの最終利益予想をタイムリーにかつ定期的に確認できます。
- これによりプロジェクト別原価管理の精度が飛躍的に向上し、一方で、適切なアクションを早期に取ることが可能となります。

共通プロジェクト配賦

- Plaza-i では、コストプールとなるプロジェクトを作り、そこに発生したコストを、指定したコストドライバにより、各プロジェクトに配賦することが出来ます。

- これにより、例えば、各プロジェクトの直接労務費の一定比率を製造間接費としてチャージするなどが可能となります。